

学校目標『元気いっぱい 自分から学び 共に高め合う西与賀っ子』の育成



にしよかつ子

令和 8月 10月 14日(水)
文責 校長 大石 文枝 第12号
☎ 0952-23-6300



㊦こにこあいさつする子 ㊧しっかり勉強する子 ㊨ろこんで働く子 ㊩からだをきたえる子 ㊪ながり学び合う子 ㊫ころをみがく子

■「好き」の3効果

「好きこそものの上手なれ」ということわざがあります。「好き」という気持ちは、子供たちの成長にとって大きな力になります。私は、「好き」には三つの効果があると考えています。

一つ目の効果は、「楽しいから飽きない」ということです。

子供たちは、自分が好きなことには驚くほどの集中力を発揮します。昆虫が好きな子は何時間でも虫を探し続け、本が好きな子は時間を忘れて読みふけります。誰かに命じられたからではなく、「もっと知りたい」「もっとやってみたい」という気持ちが行動を支えています。「勉強しなさい」と言われなくても、自分から進んで取り組めるのは、「好き」という気持ちがあるからです。人は楽しいことには自然と時間を使い、繰り返し挑戦することができます。つまり、興味や関心は学びの入口であり、「好き」という感情は、子供を学びへと自然に導く最も強い力だと考えます。

二つ目の効果は、「効率が上がる」ということです。

好きなことをしているときは、集中力が高まり、理解も早くなります。興味や好奇心をもって学ぶと、脳の記憶や学習に関わる働きが高まると言われています。例えば、電車が好きな子は、路線図や駅名を驚くほど覚えています。料理が好きな子は、分量を量るうちに自然と分数や割合の感覚が身に付きます。好きなことは、知りたい、やってみたいという意欲を生み出し、学びの吸収力を高めてくれます。学習においても同じ一時間で、「やらされる学習」と「知りたいから学ぶ学習」では、集中力も理解の深さも大きく異なります。「好き」は努力を努力と感じさせず、学びの質を高めてくれるのだと思います。

三つ目の効果は、「後味がよいから、またやりたくなる」ということです。

好きなことに取り組んだ後には、「楽しかった」「もう一度やってみよう」という充実感が残ります。この心地よい達成感が、次の挑戦への意欲を生み出します。このような内側から湧き上がる意欲を「内発的動機づけ」と言います。人は、自ら選び、自ら取り組んだ経験を通して、粘り強さや自己肯定感を育てていきます。失敗しても諦めず、「次は工夫してみよう」と考えられる子供は、この力を少しずつ身に付けているのです。

もちろん、好きなことだけをして生きていくことはできません。しかし、「好き」を入り口にした学びは、やがて苦手なことにも挑戦する力を育てると思います。好きなことに熱中した経験のある子供は、努力する喜びや、続ける価値を知っています。それは、人生を支える大きな財産になることでしょう。学校は、子供たち一人一人の「好き」を見つけ、その芽を大切に育てる場所でありたいと考えています。ご家庭でも、お子様が夢中になっていることに耳を傾け、「よく頑張っているね」「面白そうだね」と温かく認めていただければ幸いです。大人に認められた「好き」はやがて自信となり、学ぶ喜びとなり、自ら未来を切り拓く力へと育っていくと信じています。

■ 町民運動会 地域の一員として輝く子供たち

10月4日(日)に町民運動会が開催されました。当日は、時折小雨が降る時間帯もありましたが、子供たちと地域の皆様と一緒に競技に参加する姿が見られ、心温まる一日となりました。小学生から大人まで、地区のバトンをつないだリレーでは、世代を超えて力を合わせる姿に大きな声援が送られ、大いに盛り上がりました。運動会を通して、子供たちと地域の皆様との交流が深まる、貴重な機会となりました。

また、今回はボランティアとして、5年生10名、6年生6名が運動会の運営を支えました。



全力疾走のかけっこ

決勝係、賞品係、道具係など、それぞれの役割を担い、役員の皆様からの指示を待つだけでなく、自分で考えて行動する姿も見られました。例えば、雨で濡れた椅子を雑巾で率先して拭くなど、周りの様子を見ながら進んで仕事を見つけて取り組む姿は、とても頼もしく感じられました。

地域の一員として、町民運動会を支える役割を果たした子供たち。その姿は、まぶしく輝いていました。地域の皆様と関わり、支えていただきながら、子供たちもまた地域を支える存在へと成長していきます。これからも、地域とのつながりを大切にしながら、子供たちの成長を見守っていきたいと思います。



ボランティアの子供たち
玉入れの籠を真っ直ぐ立てたり傾けたり・・・

■ 劇団「風」ワークショップ開催

10月5日(月)、学校巡回公演として、東京演劇集団「風」の皆様をお迎えし、ワークショップを行いました。これは、年が明けた1月14日(木)に本校で上演されるミュージカル「星の王子さま」に、全校児童が参加するためのものです。

約1時間半のワークショップでは、劇団員の皆様と一緒に、ミュージカルのクライマックスの場面を歌ったり、セリフを言ったり、動きをつけたりしました。「こうしなければならない」という決まった表現ではなく、一人一人が自分の思いを声や歌、動きに表し、自分の感性を大切にしながら表現するという活動でした。初めは少し恥ずかしそうにしていた子供たちも、劇団員の皆様の温かな声かけに背中を押され、次第にのびのびと表現するようになりました。演出家の方から「いいよ。」「上手だね。」と声をかけていただくと、子供たちは嬉しそうな表情を見せ、自信をもって表現する姿につながっていました。演劇の楽しさだけでなく、自分らしく表現することの楽しさも感じる事ができたようです。

また、劇団員の中には佐賀市出身の方もいらっしゃったので、演劇をより身近なものとして感じた子供もいたのではないのでしょうか。今回のワークショップを通して、1月14日の本公演がますます楽しみになりました。当日は、劇団員の皆様と子供たちがどのような「星のおうじさま」の世界をつくり上げるのか、今からとても楽しみです。



舞台装置で遊ぶ子供たち

■ 1年生～4年生バス旅行

10月8日(木)は、子供たちが楽しみにしていたバス遠足でした。晴天にも恵まれ、子供たちの笑顔がたくさん見られた1日でした。

1・2年生は大牟田市動物園に行き、様々な動物を見て大喜びでした。動物の動きやかわいらしい姿に歓声を上げていました。諏訪公園では、思いっきり体を動かして遊具で遊んだり原っぱを走り回ったりしていました。

3年生は佐賀市広域消防署と県立宇宙科学館へ行きました。消防署では、消防車や救急車を見せってもらうだけでなく、実際に仕事をされている通信指令室も見学してもらい、暮らしを守ってくださっている消防署のことを詳しく知ることができました。宇宙科学館では、様々な体験活動を通して、理科の面白さに触れました。

4年生はマリンワールドを訪れ、たくさんの魚や生き物を興味深く観察しました。更に、普段は入ることができないバックヤードツアーにも参加し、水族館の裏側や生き物を支える仕事について学びました。

楽しい思い出と新たな発見が詰まった充実したバス遠足となりました。



遊具で遊んでいる1年生



うさぎを見ている2年生



消防車に釘付け3年生



バックヤードに興味津々4年生